

「新連携による市場創出推進セミナー」を開催

本会では、国の中小企業施策である「新連携支援制度」を広くPRするとともに、制度を活用した市場創出の手段を学ぶセミナーを、1月18日に山形で、2月21日に酒田で開催した。

セミナーでは、企業組合企業仲人連盟の荒木和夫理事長が「これからの市場戦略と顧客づくり～進化する顧客ニーズと新連携～」と題し講演を行った。荒木理事長は「あるコンビニエンスストアでは、主婦と一緒に作ったおにぎりがヒットしている」と例を挙げ、「大手企業は徹底的にマーケティングをしている。客と社会のニーズをいち早く把握することが大切」と強調。中小企業者の対抗手段としての連携の必要性を、多面的に説明した。



また、事例発表として、雛人形を伝承する会の国井 一代表が、「異業種連携による五節供雛の新製品開発について」と題して講演を行った。

企業組合交流会開催!

2月23日、3月16日山形市ホテルメトロポリタン山形において、県内の企業組合関係者が出席して「企業組合交流会」が開催された。

講師に有限会社マネジメント・コミュニケーションズ代表取締役 樋口智成氏を迎え「企業組合の営業戦略のあるべき姿」、「企業組合の営業戦略の課題」と題して講演した。

第1回目は、経営環境の構造変化、経営戦略と経営構造、最近のマーケティング、営業管理を柱にどのような営業戦略をしていくべきか?の説明をうけ、実際に組合の抱える問題点を把握し、問題を掘り下げ原因を追及していくやり方を学んだ。

第2回目は、「業務環境変化と革新企画表」を実際に作成しながら、1回目で把握した問題点を実際どのような方法で解決していくべきかについてアドバイスを受けた。

また、交流会も行われ、企業組合の参加者同士名刺交換を行いながら、情報交換など交流を深めた。



高齢者向けビジネス交流会開催

3月17日、山形市ホテルメトロポリタン山形にて、高齢者向けビジネス交流会が開催された。セミナーでは、「高齢者向けビジネスの留意点」と題して(有)林葉子・生活ステーション 代表取締役社長 林葉子氏の講演を行った。林氏は、高齢者向けビジネスを考え事業を進める上での、認識しておく必要の高い事項である「老いること」や「バリアフリー」について、その事実や背景を解説するとともに、まもなく到来する「元気な高齢者」時代のビジネスについての対応や特徴を解説した。さらに、老後の住まいは健康状態と高齢化に伴い変化してゆく点を指摘し、評価の高い事例として、高齢者が地域と共生する「井戸端元気」「COCO湘南台」「ぼちぼち長屋」「いっぽく荘」「ケアセンターつくしんぼ」等の住まい事例を紹介した。

また、事例発表では住環境改善&生活支援ネットグループ代表 佐藤圭二氏が高齢者の住環境改善及び生活支援のビジネスモデルを構築し活動している内容について発表した。山形県の65歳以上の高齢化人口は25%に達



し、全国の19.5%を大きく上回っている。特に、庄内地区の市街地以外は32.9%と非常に高い。このような状況から、建設業者、医療・福祉関係者、在宅介護サービス業者等が連携し、高齢者及び同居者に対する「その家族の生活スタイルに合った、より良い暮らしができる住環境改善の提供、及び生活支援サービスの提供」を目指し、会員が連携し、高齢者の生活環境・身体状況等を实地に確認しながら、実態に即した高齢者及びその家族に最適な住宅提案を行うなどの事業活動を通じ、相談・協議・計画・実施・チェック・フォローを連携して行い、且つ利用者からの評価も取り入れたシステム事業を行っている」と語った。